

## 2016年度 個人特別研究費 研究成果報告書

所属・職・氏名：関西学院大学法学部政治学科・准教授・善教将大

研究課題：維新への支持の実証分析

研究期間：2016年4月1日～2017年3月31日

### 研究成果概要（2,000字程度）

本研究の目的は、維新政治をめぐる有権者の政治意識や投票行動の実態、およびそのメカニズムを実証的に明らかにすることである。そのために本研究はオンライン上で意識調査ないしはサーベイ実験を、近畿圏在住の有権者を対象に2016年7月の参院選後に実施した。意識調査はQualtricsを利用する形で実施し、Satisficerを除く有効回答者数は2500人である。なお、本研究は科研若手研究B「維新への支持態度の実証分析（15K16995）」と連動する形で行われるものであり、特別区設置住民投票および2015年大阪市長・府知事W選下の有権者の投票行動等の実証分析の成果（善教将大[2016]「都構想はなぜ否決されたのか」『レヴァイアサン』第59号など）を前提とするものである。

本研究の成果としては次の2点をあげることができる。第1は維新支持の規定要因に関するサーベイ実験の結果をまとめた学術論文である（善教将大[2017]「何が維新への支持態度を規定するのか：サーベイ実験による検討」『法と政治』67巻4号）。この論文において筆者は、維新が支持される要因としての「地域偏重性」に着目し、これが重要であることを実証的に明らかにした。特に大きな貢献として主張するのは、観測データを用いた分析では社会的期待迎合バイアス（Social Desirability Bias; SDB）ゆえに、誤った推定結果が示されることになるのだが、筆者が考案した無作為化要因実験（Randomize Factorial Survey Experiment; RFSE）は、このSDB問題を解決可能であり、これにより維新支持態度の規定要因としての地域偏重性を実証的に明らかにできたことである。さらにこの研究では、維新支持の「継続性」の中の「不安定性」についても明らかにすることができている。大阪で維新は多くの選挙で継続的勝利し続けているが、そこには新興政党ならではの不安定性も存在する。この点についても筆者の論文は精緻な分析に基づき明らかにしている。以上が、この第1の論文では明らかにされている知見である。

第2は政党ラベルとしての「維新ラベル」が投票行動に与える影響を明らかにするために実施したサーベイ実験の結果をまとめた学術論文である（善教将大[2016]「政党支持は投票行動を規定するのか：サーベイ実験による検証」『年報政治学』2016-II号）。一般的なイメージとしては、ある政党を支持する人はその政党ラベルが付された候補者が立候補すると、その人に投票する。自民党支持者が自民党の候補者に投票することは、何の変哲もない当たり前の話である。しかしながら日本の有権者は、必ずしも自身の支持政党に投票するわけではない特徴もっている。いわゆる政党支持態度の「規定性」はどの政党の支持者かによって異なるものとなるのだが、維新についてはこれが極めて強い。維新ラベルはしばしば候補者個人の特性などを「無視」させる効果をもつのであり、このことを実証的に明らかにした研究が筆者の論文ということになる。

以下、先に述べた2つの論文の知見を具体的な分析結果に基づき説明する。図1は、維新支持の規定要因をRFSEにより分析した結果を整理したものである。まず、維新支持者と不支持者の

間には、規定要因が支持態度に与える影響力に大きな差異が存在することがわかる。支持者では大きいが不支持者では小さい。ここから維新支持者は「不安定」な態度をもつものと考えることができる。次に、有意な因果効果を与えると解釈できる要因として、党本部の場所がどこか、関西圏の議員が何割いるかなど「地域偏重性」に関わるものがあげられる。以上は、維新が「地域」に根付いている存在だからこそ支持すること、そうではなくなった場合支持しないという人が一定数いることを明らかにしている。

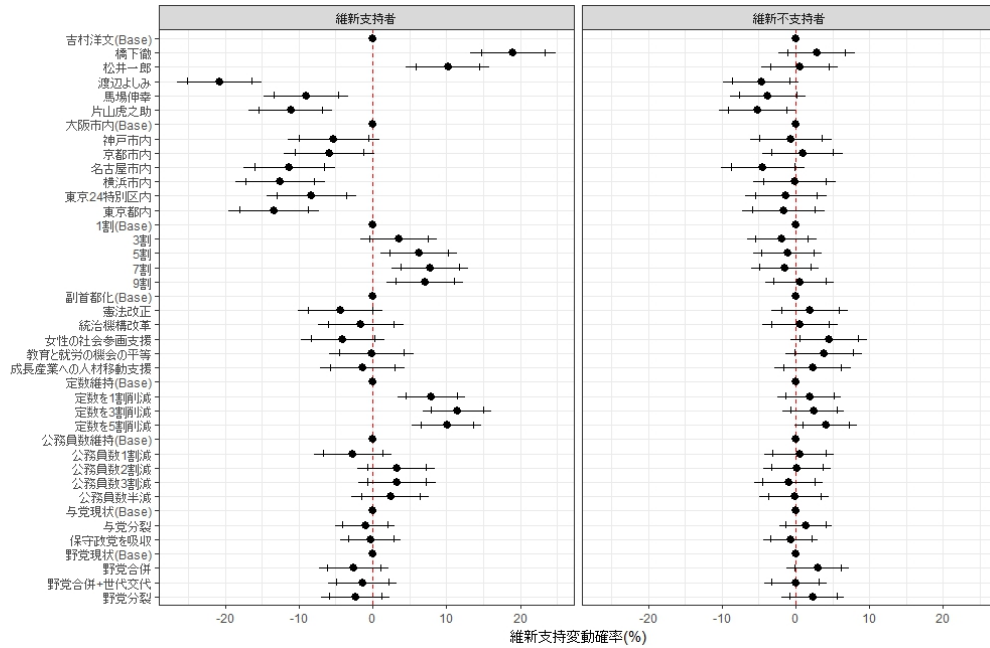


図1 維新支持の規定要因

注：図中の黒丸は平均因果効果の点推定値。横棒は信頼区間。内側95%，外側99%

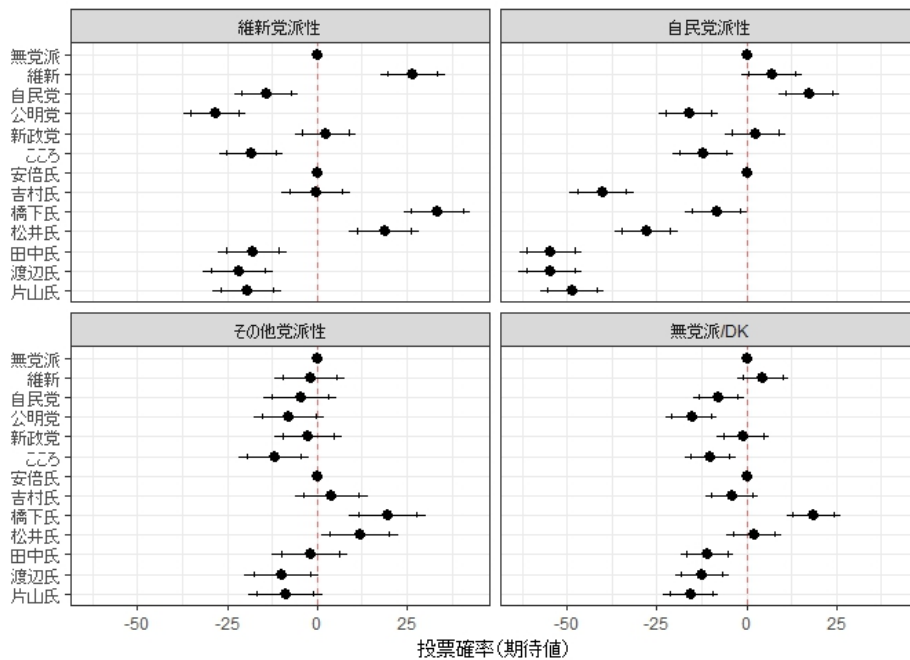


図2 有権者の党派性ごとの政党ラベル効果と候補者ラベル効果

注：図中の黒丸は平均因果効果の点推定値。横棒は信頼区間。内側95%，外側99%

続いて図2は、有権者の党派性ごとに、政党ラベルと候補者ラベルが投票行動にどのような影響を与えるのかを分析した結果を整理したものである。基本的な傾向として、政党ではなく候補者名によって投票するかしないかが左右されることがわかる。維新党派性保持者と自民党派性保持者については、政党ラベルによって投票先を決める場合があるようだが、維新支持者における維新ラベルの効果が群を抜いていることがわかる。維新支持者にとっての維新ラベルは、自らが投票する際に利用する「手がかり」としての使い勝手がよく、これを用いて維新支持者は政治的な意思決定を頻繁に行っていることが、本研究の実験からは明らかとなった。

以上を含む本研究の成果は、現在、単著の研究書として公刊する準備を進めている。既に出版社とは2017年度内の出版に向けて、交渉や打ち合わせなどを行っている。

本報告書は、データで [gakunai@kwansei.ac.jp](mailto:gakunai@kwansei.ac.jp) まで提出してください。